

題：「罪の赦しのための悔い改めのバプテスマ」

聖書箇所：

マルコ 1：4-5

1:4 バプテスマのヨハネが荒野に現れて、罪の赦しのための悔い改めのバプテスマを宣べ伝えた。 1:5 そこでユダヤ全国の人々とエルサレムの全住民が彼のところへ行き、自分の罪を告白して、ヨルダン川で彼からバプテスマを受けていた。

ルカ 24：45-47

24:45 そこで、イエスは、聖書を悟らせるために彼らの心を開いて、 24:46 こう言われた。「次のように書いてあります。キリストは苦しみを受け、三日目に死人の中からよみがえり、 24:47 その名によって、罪の赦しを得させる悔い改めが、エルサレムから始まってあらゆる国の人々に宣べ伝えられる。

皆さん、おはようございます。今日皆さんにお会いできてうれしいです。2週間前、サム牧師の説教を聞いていた時、彼が悔い改めと信仰、そして我々の罪のためのキリストの犠牲についてのテーマを話されるのを聞きました。これが、私のお気に入りの聖書箇所を思い出させました。それは福音のメッセージを上手く適切に要約している箇所です。これは、ルカによる福音書に記録されている大宣教命令のヴァージョンです。そしてこれが今日皆さんと分かち合いたいことです。

皆さんには、マタイの記した大宣教命令のほうに親しみがあるでしょう。「28:19 それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子とせよ。そして、父、子、聖霊の御名によってバプテスマを授け、 28:20 また、わたしがあなたがたに命じておいたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい。…」 (マタイ 28：19-20a)

けれども、ルカが記した大宣教命令をしっかり読んだことはありますか。地上で最後に弟子たちに語られたイエスのことばを書き記したルカは、どこに焦点を置いていたのでしょうか。ルカは自身の記した福音書の締めくくりとして、次のように書きました。「24:45 そこで、イエスは、聖書を悟らせるために彼らの心を開いて、 24:46 こう言われた。『次のように書いてあります。キリストは苦しみを受け、三日目に死人の中からよみがえり、 24:47 その名によって、罪の赦しを得させる悔い改めが、エルサレムから始まってあらゆる国の人々に宣べ伝えられる。』 (ルカ 24：45-47)

ルカはまず、弟子たちが聖書を理解できるように、イエスが彼らの心を開かなければならなかったと語ります。思い出してください。弟子たちや当時の人々は、よくイエスのことを誤解しました。それは、彼らの期待していたメシヤ（救世主）は、ローマ帝国の支配から解放してくれる政治的な救世主だったからです。（イザヤ書 9：6-7、ミカ書 5：2 等）人間に何よりも必要なのは、救い主の十字架上の犠牲によって霊的に整えられることです。けれども、当時の人々はそのことを悟っていませんでした。（マタイ 1：21、ヨハネ 1：29 等）

次に、イエスは弟子たちに、「次のように書いてあります。」と語ります。旧約聖書に記されているということです。「キリストは苦しみを受け」（イザヤ書53章等）救い主は、私たちの罪のために苦しまれるのです。そして、死なれます。そして3日目に死人の中からよみがえられます。（詩篇16：10、ホセア書6：2等）

そして、ルカは弟子たちに対してキリストが命じられたことを記します。「その名によって、罪の赦しを得させる悔い改めが、エルサレムから始まってあらゆる国の人々に宣べ伝えられる。」

マタイもルカも、このメッセージがあらゆる国の人々のためであると語ります。マタイがキリストの大宣教命令を記した際、宣教の働きに関わる主な活動内容に重点を置きました。人々を弟子とし、キリストの命じられたことを教えることです。一方、ルカが重点を置いたのは別の事柄でした。彼は、福音のメッセージの基本的な内容を記したのです。それは、悔い改めと罪の赦しでした。私が今日お話ししたいのは、この内容についてです。

今日の説教は「罪の赦しのための悔い改めのバプテスマ」と題しました。今日のメッセージの導入部分を考えていた時、今日のルカの箇所を注意深く読んでいて、「バプテスマ」という単語が登場しないことに気づきました。マタイはバプテスマを挙げています。それは、弟子作りの一部です。けれども、ルカ 24 章では挙げられていません。

実は、今日のメッセージのタイトルとして使った表現は、ある福音書の冒頭部分から取っています。その箇所には、救い主の道を整えるために、キリストの前に遣わされて来たバプテスマのヨハネの働きについて記されています。ルカ3:3には、「3:3 そこでヨハネは、ヨルダン川のほとりのすべての地方に行って、罪が赦されるための悔い改めに基づくバプテスマを説いた。」とあります。

では、マルコの福音書の冒頭部分を読みましょう。

「1:1 神の子イエス・キリストの福音のはじめ。 1:2 預言者イザヤの書にこう書いてある。『見よ。わたしは使いをあなたの前に遣わし、あなたの道を整えさせよう。 1:3 荒野で叫ぶ者の声がある。[主の道を用意し、主の通られる道をまっすぐにせよ。]』そのとおりに、 1:4 バプテスマのヨハネが荒野に現れて、罪の赦しのための悔い改めのバプテスマを宣べ伝えた。 1:5 そこでユダヤ全国の人々とエルサレムの全住民が彼のところへ行き、自分の罪を告白して、ヨルダン川で彼からバプテスマを受けていた。」（マルコ1:1-5、参照：マラキ書3:1、イザヤ書40:3）

これが、イエス・キリストの福音宣教の初めに起こった事です。旧約聖書の預言どおりに、先に遣わされたヨハネが、救い主の道を整えました。各地から人々がやってきて、罪を告白し、バプテスマを受けました。ここに、今日私が注目する単語が登場します。バプテスマ、悔い改め、罪の告白、罪の赦しです。

1) 罪

ローマ3:23

3:23 すべての人は、罪を犯したので、神からの栄誉を受けることができず、

イザヤ書59:2

59:2 あなたがたの咎が、あなたがたと、あなたがたの神との仕切りとなり、あなたがたの罪が御顔を隠させ、聞いてくださらないようにしたのだ。

罪とはなんでしょう。聖書でもっとも一般的な罪を指すギリシャ語の単語は「ハマルティア」です。これは、「的を外す」という意味です。正しい的を外した、ということです。（もしかすると、間違っただけに照準を合わせていたことが理由かもしれません。）私たちは誰も、神の義の基準に達することができません。

ローマ7:24

7:24 私は、ほんとうにみじめな人間です。だれがこの死の、からだから、私を救い出してくれるのでしょうか。

私たちの多くは、自分が罪人で救いが必要であることを知っています。

2) 罪の告白と罪の赦し

聖書で一番有名な箇所はご存知でしょう。ヨハネ3章16節です。次に有名な、または次に大切な箇所はどこでしょう。私が子どものころに、ヨハネ3章16節の次に大切な聖句として教わったのは、ヨハネ第一1章9節でした。「1:9 もし、私たちが自分の罪を言い表すなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます。」

ではこの箇所の文脈を見てみましょう。ヨハネ第一1:5-7はこう語ります。

「1:5 神は光であって、神のうちには暗いところが少しもない。これが、私たちがキリストから聞いて、あなたがたに伝える知らせです。 1:6 もし私たちが、神と交わりがあると言っているが、しかもやみの中を歩んでいるなら、私たちは偽りを言っているのであって、真理を行ってはいません。 1:7 しかし、

もし神が光の中におられるように、私たちも光の中を歩んでいるなら、私たちは互いに交わりを保ち、御子イエスの血はすべての罪から私たちをきよめます。」

「…御子イエスの血はすべての罪から私たちをきよめます。」

「もし私たちが、神と交わりがあると言っているが、しかもやみの中を歩んでいるなら、私たちは偽りを言っているのであって、真理を行ってはいません。」

神は光です。そして、自分はクリスチャンだと言うなら、私たちは罪のやみの中ではなく、光の中を歩まなければなりません。

「…御子イエスの血はすべての罪から私たちをきよめます。」

ヨハネ第一2章1-2節

2:1 私の子どもたち。私がこれらのことを書き送るのは、あなたがたが罪を犯さないようになるためです。もしだれかが罪を犯すことがあれば、私たちには、御父の前で弁護する方がいます。義なるイエス・キリストです。2:2 この方こそ、私たちの罪のための——私たちの罪だけでなく、世全体のための——なだめの供え物です。

私たちは自分の罪を告白し、キリストを信じます。このお方は、父なる神の前で私たちを弁護してくださいます。キリストは罪のいけにえです。私たちの罪のなだめの供え物です。「なだめ」とは、やわらげる、満たす、怒りをしずめるなどの意味があります。キリストは十字架上で死に、私たちの罪の罰を受けてくださいました。私たちは罪のせいで、創造主なるお方に借りがありましたが、キリストの犠牲がその借りを十分に支払ってくださったのです。

ペテロ第一2：24-25

2:24 そして自分から十字架の上で、私たちの罪をその身に負われました。それは、私たちが罪を離れ、義のために生きるためです。キリストの打ち傷のゆえに、あなたがたは、いやされたのです。2:25 あなたがたは、羊のようにさまよっていましたが、今は、自分のたましいの牧者であり監督者である方のもとに帰ったのです。

父なる神が私たちに望まれるのは、義の道を生きることです。しかし、私たちは道をそれ、罪に陥ってしまいました。人類が義の道を歩むという神の望みを実現するために、キリストは人の姿をして、人の体を贖うためにいけにえとなってくださいました。それは人類を贖うため、つまり、私たちを贖うためでした。

コリント第二5：20b-21

…私たちは、キリストに代わって、あなたがたに願います。神の和解を受け入れなさい。5:21 神は、罪を知らない方を、私たちの代わりに罪とされました。それは、私たちが、この方であって、神の義となるためです。

これがこの世に私たちが伝えるべきメッセージです。私たちは皆罪人であること、キリストが十字架上で払われた犠牲によって罪の罰を受けてくださったこと、そして、私たちが神と和解させていただき、罪をきよめていただけることです。神は、私たちとの和解を求めておられます。神は私たちが「自分のたましいの牧者であり監督者である方のもとに帰」るのを望んでおられます。それは、悔い改めを意味します。

3) 悔い改め

これは非常に重要なテーマです。そして、今日おもにお話したい内容です。

悔い改めと訳されたギリシャ語は「メタノイア」です。これは、「後悔」や「回心」を意味します。ですから、基本的に、何かについての考えを変えることです。考えを変えることは、たいいてい生き方を変えることにつながります。クリスチャンの言葉では、これは罪についての考えを改めることであり、創造主に対する反抗的な態度についての考えを改めることです。これが悔い改めの本質です。罪について、そして神に立ち返ることについて考えを改めることです。そこから、通常悔い改めの実である行いの変化がみられるようになります。罪に背を向け、神に心を向けるのです。

ヘブル語では、悔い改めを指す単語が二つ使われています。戻ることを意味する「シュエヴ」と悔いることを意味する「ニカム」です。ここに、私たちが悔い改めと関連付けるふたつの要素があります。罪を悔いる気持ち（後悔と呼ばれる）と考え方の方向転換です。そこから、新たな生き方へとつながります。

これらのことを考えるとき、ダビデ王がバテシェバと罪を犯した話が思い浮かびます。バテシェバは他人の妻でしたが、ダビデは彼女を求め、彼女の夫を戦死させようと画策しました。預言者ナタンがダビデにその罪を突きつけると、ダビデは過ちを犯したことを認めました。罪を犯したことを認めて大いに悲しみ、悔い改めました。その後、ダビデは詩篇51篇を書きました。これは、その詩篇の一部です。

詩篇51篇

51:1 神よ。御恵みによって、私に情けをかけ、あなたの豊かなあわれみによって、私のそむきの罪をぬぐい去ってください。

51:2 どうか私の咎を、私から全く洗い去り、私の罪から、私をきよめてください。

51:3 まことに、私は自分のそむきの罪を知っています。私の罪は、いつも私の目の前にあります。

51:4 私はあなたに、ただあなたに、罪を犯し、あなたの御目に悪であることを行いました。それゆえ、あなたが宣告される時、あなたは正しく、さばかれるとき、あなたはきよくあられます。

51:7 ヒソブをもって私の罪を除いてきよめてください。そうすれば、私はきよくなりましょう。私を洗ってください。そうすれば、私は雪よりも白くなりましょう。

51:9 御顔を私の罪から隠し、私の咎をことごとく、ぬぐい去ってください。

51:10 神よ。私にきよい心を造り、ゆるがない霊を私のうちに新しくしてください。

51:12 あなたの救いの喜びを、私に返し、喜んで仕える霊が、私をささえますように。

51:13 私は、そむく者たちに、あなたの道を教えましょう。そうすれば、罪人は、あなたのもとに帰りましょう。

51:17 神へのいけにえは、砕かれた霊。砕かれた、悔いた心。神よ。あなたは、それをさげすまれません。

17節：「神へのいけにえは、砕かれた霊。砕かれた、悔いた心。神よ。あなたは、それをさげすまれません。」ここに、悔い改めの本質が示されています。それは、砕かれた悔いた心です。

4節a：「私はあなたに、ただあなたに、罪を犯し、あなたの御目に悪であることを行いました。」ここに、罪の告白があります。

7節：「ヒソブをもって私の罪を除いてきよめてください。そうすれば、私はきよくなりましょう。私を洗ってください。そうすれば、私は雪よりも白くなりましょう。」（9節も）ここに、赦しときよめがあります。

10節：「神よ。私にきよい心を造り、ゆるがない霊を私のうちに新しくしてください。」ここに、新しくされた人生があります。

13節：「私は、そむく者たちに、あなたの道を教えましょう。そうすれば、罪人は、あなたのもとに帰りましょう。」これはとても興味深い内容です。ダビデは悔い改めて神に立ち返った後、罪人に神の道を伝え、神との正しい関係を取り戻す方法や悔い改めて神に立ち返る方法を伝える立場になりました。私たちにも、人々に分かち合える証があります。私たちがどのようにして創造主と和解させていただいたか、そして私たちの知人友人もどのようにしてそうすることができるかを伝えることができます。

先ほど、コリント第二に記された使徒パウロの願いを引用しました。「私たちは、キリストに代わって、あなたがたに願います。神の和解を受け入れなさい。」（コリント第二5：20b）

コリント第二5：18-20a

これらのことはすべて、神から出ているのです。神は、キリストによって、私たちをご自分と和解さ

せ、また和解の務めを私たちに与えてくださいました。すなわち、神は、キリストにあって、この世をご自身と和解させ、違反行為の責めを人々に負わせないで、和解のことばを私たちにゆだねられたのです。こういうわけで、私たちはキリストの使節なのです。ちょうど神が私たちを通して懇願しておられるようです。

キリストによって、神はこの世をご自身と和解させようとしておられます。キリストに従う私たちは、「和解の務め」をいただいています。それは、「和解のメッセージ」をこの世に告げ知らせることです。私たちはキリストの使節です。神は、私たちをとおしてこの世に手を差し伸べて働かれます。私たちは各々、何らかのかたちでその働きに加わるべきです。パウロがここで語っているのはこのことです。彼は、キリストが弟子たちに命じられた最後のことばを代弁しているのです。悔い改めと罪の赦しが主の名によって世界中に告げ知らされ、罪人が神と和解し、罪人が罪に背を向けて神に立ち返るというメッセージです。

使徒20：21で、使徒パウロは次のように描かれています。「20:21 ユダヤ人にもギリシヤ人にも、神に対する悔い改めと、私たちの主イエスに対する信仰とをはっきりと主張したのです。」

4) 悔い改めと信仰

プロテスタントと福音派は、「信仰のみ」による救いについて語るのを好みます。では、私たちの救いの中で、悔い改めはどのような役割を果たすのでしょうか。説教者が「信仰のみ」という部分を強調するあまり、悔い改めがクリスチャンの回心に必要不可欠な要素であることを軽視するような発言が聞かれることがあります。しかし、使徒20：21やルカの福音書にある大宣教命令からわかるように、悔い改めは、福音のメッセージに欠かせない要素です。

では、ESV訳のスタディ・バイブルから、信仰と悔い改めの関係性について記された個所をふたつ引用します。ひとつめは、このスタディ・バイブルの神学記事の導入部分にある、救いに関する記述からです。

「神に要求される根本的な応答は、信仰と悔い改めである。（使徒2：38注参照）信仰と悔い改めへの呼びかけは、バプテスマのヨハネの働きにも、イエスの御国の告知（マルコ1：15）にも顕著に示されている。また、使徒の働きに記録された使徒たちの演説、パウロの手紙、など新約聖書の随所に顕著である。事実、新約聖書の全体が、悔い改めと信仰への呼びかけと捉えることができる。（ヘブル11章参照）

この引用は、使徒2：38の注釈を読むようにと促します。その個所を開くと、以下のようなコメントがあります。

福音は、いくつかの方法で要約できる。信仰のみが救いに必要なものとして挙げられることがある。（ヨハネ3：16、使徒16：31、ローマ10：9、エペソ2：8-9参照）また、悔い改めだけが挙げられることもある。（ルカ24：47、使徒3：19、5：31、17：30、コリント第二7：10）その両方が挙げられる場合もある。（使徒20：21）真の信仰には必ず悔い改めが伴い、逆もまた同様である。悔い改めは、神を信じるところ（つまり信仰）に至る、考え方の変化を含む。

使徒20:21 「ユダヤ人にもギリシヤ人にも、神に対する悔い改めと、私たちの主イエスに対する信仰とをはっきりと主張したのです。」

信仰のみが救いに必要なものとして挙げられることがある。また、悔い改めだけが挙げられることもある。その両方が挙げられる場合もある。けれども、両方が重要です。この注釈の説明はとてもよいと思います。

5) 悔い改めてバプテスマを受ける

先ほど、私のスタディ・バイブルに記されている使徒2：38の注釈を引用しました。この個所は、五旬節にペテロが語った偉大な説教の中に登場します。人々は自らの罪を示され、37節で「兄弟たち。私たちはどうしたらよいでしょうか」と尋ねます。これに対し、ペテロが38節で「悔い改めなさい。そして、それぞれ罪を赦していただくために、イエス・キリストの名によってバプテスマを受けなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けるでしょう。」と答えました。

ここに、今日の説教のテーマとなる単語が登場します。悔い改め、罪の赦し、そして、バプテスマです。バプテスマのヨハネの働きでも、イエス・キリストの働きでも、そして、使徒の働きに記された使徒たちの働きでも、悔い改め、罪の告白、福音を信じる信仰のあとに続くのは、バプテスマ、つまり洗礼です。洗礼では、新たにクリスチャンになった人を水に浸し、また水から引き揚げます。これは、私たちの古い性質が死に、新しいいのちをもってよみがえったことをうるわしく描きます。これは、キリストの死と復活を映し出します。（スクリーンでご覧いただいている画像は、私たちの悔い改め・洗礼・キリストにある新しいいのちが、キリストの死・埋葬・復活に似ていることを示しています。

6) 悔い改めの実

これが今日の説教の最後のポイントです。悔い改めとはどういうものかをおわかりいただくために、聖書からいくつかのお話をご紹介します。実は、そのひとつはすでにご紹介しました。ダビデ王のお話です。これから、いくつかのお話を見ていきましょう。これらのお話は新約聖書に記されています。

バプテスマのヨハネが荒野で教えていた時、人々は各地から来て罪を告白し、バプテスマを受けました。彼はその人たちに、「悔い改めにふさわしい実を結びなさい。」（ルカ3：8a）と励ましました。どうやって実を結べばよいのかと人々が助言を求めると、ヨハネは次のように答えました。

ルカ3：10-14

3:10 群衆はヨハネに尋ねた。「それでは、私たちはどうすればよいのでしょうか。」 3:11 彼は答えて言った。「下着を二枚持っている者は、一つも持たない者に分けなさい。食べ物を持っている者も、そうしなさい。」 3:12 取税人たちも、バプテスマを受けに出て来て、言った。「先生。私たちはどうすればよいのでしょうか。」 3:13 ヨハネは彼らに言った。「決められたもの以上には、何も取り立ててはいけません。」 3:14 兵士たちも、彼に尋ねて言った。「私たちはどうすればよいのでしょうか。」 ヨハネは言った。「だれからも、力づくで金をゆすったり、無実の者を責めたりしてはいけません。自分の給料で満足しなさい。」

ここには、悔い改めて人生を変える決心をした人々に見られるはずだとヨハネが考えた変化の例が挙げられています。彼らは、貧しい人に食べ物や着るものを分け与えました。そして、自分の立場を悪用して、不当な利得を得ることをやめました。人を脅したり、濡れ衣を着せたりしませんでした。兵士は特に、自分のもらう給料で満足すべきで、人から金品をゆすりとったりしないようにしなければなりません。

マタイ3章でヨハネは、彼を見に来たパリサイ人や宗教指導者たちを強く批判しています。

マタイ3：7-9

3:7 しかし、パリサイ人やサドカイ人が大ぜいバプテスマを受けに来るのを見たとき、ヨハネは彼らに言った。「まむしのすえたち。だれが必ず来る御怒りをのがれるように教えたのか。 3:8 それなら、悔い改めにふさわしい実を結びなさい。 3:9 『われわれの父はアブラハムだ』と心の中で言うような考えではいけない。あなたがたに言うておくが、神は、この石ころからでも、アブラハムの子孫を起すことができになるのです。」

ヨハネは彼らの心を見抜いていました。説教者の話を聞きに来るだけで十分ではありません。バプテスマを受けようとするだけでは十分ではありません。家系や受け継いだ宗教的伝統を頼りにすることもできません。人は、「悔い改めにふさわしい実を結」ばなければならないのです。新たな生き方につながる心と行動の変化です。

過ちを正し、良い実を結ぶことにつながる心の変化についての話とえば、取税人ザアカイの話が思い浮かびます。この話の中に「悔い改め」という単語は登場しませんが、その実は明らかです。

ルカ19：1-10

19:1 それからイエスは、エリコに入って、町をお通りになった。 19:2 ここには、ザアカイという人が

いたが、彼は取税人のかしらで、金持ちであった。 19:3 彼は、イエスがどんな方か見ようとしたが、背が低かったので、群衆のために見ることができなかった。 19:4 それで、イエスを見るために、前方に走り出て、いちじく桑の木に登った。ちょうどイエスがそこを通り過ぎようとしておられたからである。 19:5 イエスは、ちょうどそこに来られて、上を見上げて彼に言われた。「ザアカイ。急いで降りて来なさい。きょうは、あなたの家に泊まることにしてあるから。」 19:6 ザアカイは、急いで降りて来て、そして大喜びでイエスを迎えた。 19:7 これを見て、みなは、「あの方は罪人のところに行つて客となられた」と言つてつぶやいた。 19:8 ところがザアカイは立って、主に言った。「主よ。ご覧ください。私の財産の半分を貧しい人たちに施します。また、だれからでも、私がだまし取った物は、四倍にして返します。」 19:9 イエスは、彼に言われた。「きょう、救いがこの家に来ました。この人もアブラハムの子なのですから。 19:10 人の子は、失われた人を捜して救うために来たのです。」

なぜ彼は、イエスにそれほど会いたかったのでしょうか。彼は、イエスの教えを知っていたようです。そして、イエスが持つておられるものが自分にも必要だと自覚していたようです。イエスは、「きょうは、あなたの家に泊まることにしてあるから。」と言つて、ザアカイに手を差し伸べ、彼をまるごと受け入れてくださいました。恵みをもって受け入れてくださったイエスに、ザアカイは悔い改めの実をもって応答しました。そして、自分の財産の半分を貧しい人に分け与え、だまし取ったお金は4倍にして返すと約束しました。この約束はもちろん、心からのものでした。悔い改めも心から起こるものです。悔い改めた後に、悔い改めの実が実るわけです。

今日のメッセージを締めくくる前に、もうひとつのお話を紹介します。これは、ヨハネ4章に記された、井戸端の女の話です。ここでも、「悔い改め」という単語は登場しませんが、その日確かに、この女は悔い改めました。

イエスがサマリヤの井戸の近くにひとりで座っておられると、ひとりの女が水を汲みにやってきました。イエスは彼女に話しかけ、「いのちへの水」と「まことの礼拝」について語られました。イエスが夫を呼ぶように言われると、夫はいないと女は答えます。するとイエスは、彼女に夫が5人いたが、今いっしょにいるのは夫ではないことをよく知っておられることを明かされます。そこで女は、イエスが預言者だと気づきます。そして、来たるべきメシヤについて話すと、イエスはご自身がそのメシヤだと答えられました。彼女は興奮して町に戻り、人々にそのことを伝えます。

ヨハネ4：28-30

4:28 女は、自分の水がめを置いて町へ行き、人々に言った。 4:29 「来て、見てください。私のしたこと全部を私に言った人がいるのです。この方がキリストなのではないでしょうか。」 4:30 そこで、彼らは町を出て、イエスのほうへやって来た。

そして、39-42節にはこうあります。

4:39 さて、その町のサマリヤ人のうち多くの者が、「あの方は、私がしたこと全部を私に言った」と証言したその女のことばによってイエスを信じた。 4:40 そこで、サマリヤ人たちはイエスのところに来たとき、自分たちのところに滞在してくださるよう願った。そこでイエスは二日間そこに滞在された。 4:41 そして、さらに多くの人々が、イエスのことばによって信じた。 4:42 そして彼らはその女に言った。「もう私たちは、あなたが話したことによって信じているのではありません。自分で聞いて、この方がほんとうに世の救い主だと知っているのです。」

今日のメッセージの前半で、ダビデ王が罪を悔い改めて記した詩篇51篇を引用しました。

詩篇51：12-13

51:12 あなたの救いの喜びを、私に返し、喜んで仕える霊が、私をささえますように。

51:13 私は、そむく者たちに、あなたの道を教えましょう。そうすれば、罪人は、あなたのもとに帰りましょう。

井戸端の女も同じです。彼女は救い主と出会い、自分の罪を悟り、他の罪人に伝えに行きます。そして、人々が来て救い主の話聞き、彼らもまた主を信じるようになります。

私たちは皆、救い主に会った証があります。私たちはその体験を人に伝えることができます。私たちには「和解の務め」があると、使徒パウロは言いました。私たちも、自分自身の体験を人々に伝えましょう。

今日のメッセージは悔い改めについてでした。皆さんはもう悔い改めましたか。人に対して、そして創造主に対して罪を犯したことを自覚していますか。

救い主に会い、バプテスマを受ける覚悟ができましたか。

「悔い改めにふさわしい実を結び」たいと思いますか。

ホール後方にリフトサインがあります。礼拝後、係の者が待機しています。どんな祈りの必要でも、いっしょに祈って助けてくれます。

神様の祝福が皆さんにありますように。